

NPO わかやま環境ネットワーク通信

ういねっと

Wakayama environmentalists N E T work

和歌山県地球温暖化防止活動推進センター

平成18年10月 第5号

知らなかった！！ 「土井さんが紀ノ川のシオマネキを守ったなんてえー！」

「神戸市ではシルバーカレッジから地域活動NPOが誕生したなんてえー！」

＝ 毎月の学習会が大好評！ぜひご参加を！！＝

毎月第2水曜日に行われている月例会、4月より後半1時間は会員の方々に講師に学習会を開催している。何とこの学習会がかなりの好評を博している！！

4月の講師は和歌山市立こども科学館の土井浩教育主事。土井さんは紀ノ川に新しい橋が架かるのを知り「シオマネキ」が絶滅することを訴えて、その保護策を考案、ついにシオマネキを守ったという（実は長期間の大変な苦労だった！）。



シオマネキが息息する紀ノ國大橋左岸

また和歌山市の「メダカ」の生態も調査して、その保護にも努めたという。5月は紀州大地の会の園井信雅代表が講師。園井さんは微生物（HDM）による「産業食物残さ処理に成功」したことを報告、大手スーパーや食品加工メーカーから出る大量の食物残さをCO2排出量最大95%削減で行う計画を表明。また市民による河川浄化活動も紹介した。6月は環境カウンセラーの水本勇さん、水道水を作るのに如何に大量のCO2を排出するか？や下水処理のシステムを「水の学習教材」を使って解説、多くの質問が相次いだ。7月はビオトープ管

理士の高橋久富さん、日本における生物多様性の危機的状況や和歌山の自然調査の結果を紹介、生態系保護のキーワードが「遺伝子」であることを訴えた。また環境番組を試写、日本人一人が年間4.3%もの土地を酷使していることなどを知った。8月休講の後、9月の講師は環境カウンセラーの松本朱実さん。松本さんは神戸市シルバーカレッジのコーディネーターで、生活環境を学んだ受講生からNPOが誕生して地域活動への参画や神戸市施設の企画運営を受託したプロセスを紹介、また地元の子どもエコクラブの活動から「地域における環境教育の大切さ」を示唆した。10月は県内電器販売店に導入予定の「統一省エネラベル」を重栖代表理事が解説、また県の環境学習車「紀ノ国エコワゴン」の装備などを学習、今後のそれぞれの活動に役立てた。



9月13日 学習会（講師 松本朱実さん）

毎回、様々な驚きや発見、前進を体験できる学習会。参加者は充実した時間を存分に満喫している。みなさんの参加をお待ちしています。

みなさんの参加をお待ちしています。

みなさんの参加をお待ちしています。

県センター主催「STOP！地球温暖化・街頭啓発キャンペーン」参加者募集！

- ・11月12日（日） 場所 メッサオークワガーデンパーク和歌山
- ・11月19日（日） 場所 パピリオンシティオークワ田辺店

※両日とも11時～13時 **WeNET 会員・推進員の方々の参加をお待ちしています！**



<センターロゴマーク>

* 同封の「ECOわかやま」にも主な活動が掲載されています、併せてご愛読ください。

11月12日（和歌山市）・19日（田辺市） 県センター主催「STOP!地球温暖化・街頭啓発 キャンペーン」開催！！

4月より県センターとして検討を重ねてきた「県内温暖化防止啓発キャンペーン」は、広く県民にPRしようとの意図から主婦や子ども、若者が多く集まる大型スーパーで開催することを決定、11月12日(日)に和歌山市のメッサオークワ（ガーデンパーク和歌山）、同19日(日)に田辺市のパビリオンシティ（オークワ）で大々的に行う。



企画内容は3月に開催した「紀ノ川環境フォーラム2006」の成功をもとに、県センター独自製作の発電自転車（愛称募集）による発電体験、子どもたちに人気を博した紀州レンジャーショーと環境クイズ、またプラカードとノボリを持った推進員らによる温暖化防止のPR活動、そして県からは

環境学習車「紀の国エコワゴン」が登場して環境保全への理解を深める予定。特に今回は県センターのエコバッグを用意して買い物客にアンケート協力を依頼、答えてもらった人にプレゼントする。

また温暖化防止の「しおり」も制作、配

布することになっている。10月の月例会ではWeNET会員・温暖化防止推進員の参加・協力を強く呼びかけることを決めた。

多数の参加・協力で成功させよう！

「わかやま環境フォーラム2007」 来年2月4日 開催決定！！

県センターは「温暖化防止啓発キャンペーン」だけでなく、環境問題に携わる人々に更なる学習の機会を持ってもらおうと「わかやま環境フォーラム2007」を来年2月4日(日)

に和歌山市紀三井寺の和歌山地域地場産業振興センターで開催することを決定、担当スタッフによる準備が進められている。この環境フォーラムのメイン企画は、ゴミ問題・環境漫画で有名な高月紘さん（石川県立大学教授）を講師に招き、「地球環境問題と私たちのライフスタイル」をテーマに、漫画を使った楽しい講演を予定している。会場には高月さんをはじめ、環境漫画協会会員の漫画展、及び県が今年度小中学生を対象に募集した「ストップ地球温暖化」ポスターの展示を行うとともに、紀州レンジャーショーやエコカルタ大会、自転車発電体験コーナーなども企画され、より多くの人が参加できるように検討を重ねている。高月さんの講演は温暖化防止活動推進員のスキルアップ研修を兼ねているが、推進員だけでなく多くの人に環境情報を提供しようと企画された。

ういゅっと コラム

「動物を観察して 環境を考えよう！」

皆さん、フラミンゴのくちばしと足を絵に描き入れてください。あれ、どんな形だったかな？と考えてしまうかもしれません。フラミンゴは水中のプランクトンを濾して食べるのに都合のよい、湾曲した嘴と長い脚を持っています。今度、ぜひ動物園で本物を観察してみてくださいね。「のどをふるわせて食べる」「水かきがある」「脚が人間のひざと逆に曲がる...？」事前に体つきを予想してから動物を観察すると、今まで気づかなかった新たな発見ができるでしょう。



このように楽しく動物を観察したら、その動物のくらしや環境との関わり、そして私たちとのつながりに目を向けてみましょう。塩水湖という特殊な環境でくらすフラミンゴは、人間が出す生活排水や農薬による水質の悪化で生息数が減少します。今、豊岡で野生復帰が進められているコウノトリは、まっすぐ大きなくちばしで田んぼの魚やカエルを捕まえて食べます。そこで豊岡では田んぼへの魚道を確保したり、農薬を使わない農法を普及させたりして、コウノトリにも人にもやさしい環境づくりを目指しています。つまり、動物の保全は環境や私たちのくらしの保全にもつながっているのです。スズメやモズなどの身近な野鳥も観察しながら、環境とのつながりを一緒に考えてみませんか。

松本 朱実（動物教材研究所 pocket ・和歌山県環境学習アドバイザー）

クローズアップ！ わたしたちの活動 (5)

このコーナーはわかやま環境ネットワークに参加する団体や企業、個人の活動記録と今後の展望を紹介します。

特定非営利活動法人 花つぼみ

～花を咲かそう、まちに心に～

1983年に「自分たちのまちを、花でいっぱいになりたい」と11人の花好き仲間が集まって、花を植えるボランティア活動を始めたのがきっかけで、誕生した花つぼみ会。

1999年にNPO法人となり、現在個人会員127名、団体会員37団体、その他、多くの団体や住民の皆様のご協力を得て、「花いっぱい運動」を展開しています。



「田辺は、花がきれい！」と言っていただけののが、何よりのご褒美です。

～花づくり街づくりで、地域を元気に！～



今年「301の会」が発足しました。301の会とは、30日に1回、1～2時間、道路の花壇の手入れ、清掃などを行い、人との交流を深めながら、

地域と自分を「元気」にする会です。

初めは、団塊の世代に呼びかけようと考えていた会ですが、若い方も多く、「30日に1回でいいの？」と物足りなく思われる方は、空いた時間にどんどん作業に参加して下さるなど、ボランティア活動の輪が広がっています。

～地域に、驚きと感動を！～

9月30日、JR紀伊田辺駅前に、突如出現した「コスモス畑」。地元の方や、観光客の皆様を「あっ、こんな所に花壇が」と、驚かせました。



この『街かど 花空間』プロジェクトは、12月に『パートII』を予定しています。

国道・県道・公園・通学路・駅前・商店街・・・

これからも、地域に、観光客に、「驚きと感動」を与えるまちづくりをすすめて行きたいと考えています。



《 事業内容 》

- ◎ ボランティア・サポート・プログラム
(国道沿い約7kmの植栽や管理)
- ◎ 県道花いっぱい事業
(地元の住民・商店・会社等に呼びかけて植栽)
- ◎ 通学路花いっぱい事業
(学校・子供会・町内会等と一緒に花植え)
- ◎ 田辺 新庄総合公園の植栽事業
(600坪・市民参加型の公園作り)
- ◎ 花の植栽に関する活動のサポート事業
- ◎ セミナー・講演会・イベント等の事業他



《 花つぼみの歩み 》

- 1983年 「花つぼみ会」発足
- 1987年 花いっぱいコンクールで、建設大臣から感謝状受賞
- 1992年 緑の愛護功労者として、建設大臣から感謝状を受賞
- 1998年 地域環境美化の功績で、環境庁長官賞受賞
- 1999年 特定非営利活動法人設立
- 2001年 知事表彰 (ボランティア部門)
- 2003年 緑化推進運動功労者内閣総理大臣表

NPO 法人 花つぼみ
〒646-0014 和歌山県田辺市新方 22-17
TEL 0739-26-8719 FAX 0739-26-8724
E-mail : hanatubo@apricot.ocn.ne.jp

『省エネの達人』
NPO環境を考える会リベラル
代表の川口美智子さんに省エネ
の一例を教えてください。



『“川を美しく”』

秋涼快適となり、ぶらりと散策がしたくなりました。史跡和歌山城の御橋廊下復元も出来、和歌山市を訪れる観光客も多くなるシーズンです。

和歌山市とその周辺には、紀の川をはじめ、大小様々数多くの川が流れ、人々の生活を潤わせています。それは、人が行き交うだけでなく、文化や歴史をもつないできました。

しかし、市内の主要河川は美しいでしょうか？特に、環境基準を達成していない河川、生活系排水の占める割合の多い河川について考えてみましょう。

河川汚濁原因の50%は、生活雑排水に起因しているのが現状です。まず、身近な事からはじめましょう。

1. 食欲の秋ですが料理は必要量を考えて調理し、食べ残し・飲み残しをしない。
2. 米のとぎ汁は流さない様ライフスタイルに合わせて工夫する。(無洗米・植木への水やり)
3. 食器は紙で汚れをぬぐい取ってから洗う。
4. 洗濯は環境負荷の小さな洗剤を正しく選びまとめて洗う。
5. 温水は冷まして流す。
6. 河川をきれいにする行為に参加する。等



(例えば河川のごみ等の清掃活動) 私は、台所の水切り網には使用済みのパンストを活用しています。

また、廃植物油リサイクルを地域に呼びかけ、自宅に回

収ボックスを設置し廃油が集まったら業者の方に取りに来てもらっています。

市民が当たり前な事をちょっと工夫するだけで川はきれいに再生します。”内川魅力再発見“と、イベントも色々開催されています。市民の環境意識を高めることが“まちおこし”にもつながります。

会員以外の方にも、生活雑排水の対策にご協力をお願いかけて下さいますようお願い致します。

今期第1回理事会開く

～総会決定を忠実に実践、

さらに協働と連携で幅広い活動を～

10月31日午後1時30分から4時、今期第一回理事会がサンピア和歌山で開かれ、9人の理事(うち書面評決1人)と監事1人が出席した。理事会では、総会決定の執行状況が報告されるとともに、来年5月の第3回総会までの活動方針が討議され、承認された。

討議では、提案された①残事業に引き続き着実に取り組むこと、特に量販スーパーとの連携について可能性を追求すること、②昨年策定した和歌山県地球温暖化対策地域推進計画の実効を担保するため、条例化へ向けた作業が進められているが、条例化のタイミングをとらえ、県内における温室効果ガス削減で大きな役割を担う大企業との協働の関係を築くこと、③会員、推進員、環境マイスターの組織化、集団化、連携の強化、④収益性のある新規事業の可能性についての研究、⑤来年度事業に向けての予算要求活動、⑥WeNET 本体を質量ともに強化すること、などについて熱心な討論がなされた。同時に、「森林税」について、和歌山県の森林実態と抜本的対策の必要性が各理事から口々に語られ、いまこそ全県をネットワークする我々WeNET が、この税についての実効ある提言をすべきだとして、「政策提案」を出すことが今期方針に追加された。

NPOわかやま環境ネットワーク通信「ういねっと」

第5号 (平成18年10月31日発行)

発行：NPOわかやま環境ネットワーク

代表理事 重栖 隆 事務局長 前岡正男

事務局：〒641-0051 和歌山市西高松1-6-4 栗栖ビル2F

TEL 073-432-0234 FAX 073-421-6545

e-mail wenet@vaw.ne.jp

HP-URL http://www.vaw.ne.jp/wenet/

～活動に参加して下さる会員を募集しています～

| | | |
|-----|------------------|----------|
| 年会費 | 運営会員 (個人・NPO・学校) | 3000円 |
| | (事業者・公共団体) | 一口10000円 |
| 会費 | 会員 (個人・NPO・学校) | 3000円 |
| | (事業者・公共団体) | 一口10000円 |

※詳しくは事務局までお問い合わせください。

事務局地図

